

# 水の 話

FujiClean NEWS

2026  
Autumn

NO.213

〔特集〕

## 城下町・弘前に息づく 水文化

まちを守り、まちを潤してきた津軽の名水

# 城下町・弘前に息づく水文化

## まちを守り、まちを潤してきた津軽の名水

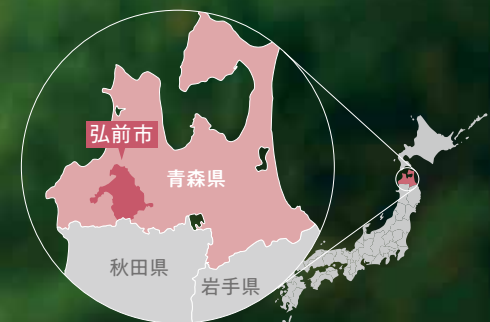
弘前市は弘前藩の城下町として栄えた歴史を持つ一方で、  
霊峰・岩木山からの伏流水による豊かな水文化が息づくまちでもあります。  
江戸時代に築かれた城下町の町割や道路網が現在も色濃く残っており、  
まち中には、当時から続く堰や用水路、湧水地が生活の一部として育まれてきました。  
まちの防衛や産業を支える基盤として独自の発展を遂げた、弘前市の水文化を紹介します。

### DATA

(2026年7月1日現在)

弘前市 (人口 155,428人 面積 524.2平方キロメートル)

弘前市は、青森県の南西部に位置し、県内では青森市、八戸市に続いて3番目に人口が多い津軽地方の中心都市です。幸いにも戦災をまぬがれて終戦を迎え、幾度も市町村合併を経て2006年に現在の弘前市が誕生しました。現在も、多くの寺社や武家屋敷など歴史的なまち並みが残り、かつて城下町として発展した様子をうかがうことができます。気候は寒暖の差が大きく、冬季はマイナス10℃付近の気温が観測される日もあるほどの豪雪地帯です。りんご栽培が盛んで、全国一の生産量を誇っています。



# 弘前藩の城下町として形成された“水のまち”。

## 弘前を潤す岩木山の豊かな伏流水

青森県の南西部、津軽平野の南部に位置する弘前市は、津軽十萬石の城下町として約400年の歴史をもち、津軽地方の政治、経済、文化、教育の中心都市として発展してきました。東に八甲田連峰を望み、西には県最高峰の岩木山、南に世界自然遺産の白神山地が連なり、白神山地を源流とする県内最大流域面積の岩木川が北流しています。弘前公園の桜や、重要無形民俗文化財にも指定されている「弘前ねぶたまつり」、秋の紅葉、冬の雪灯籠など、季節ごとにイベントがあり、多くの観光客で賑わう観光都市でもあります。

自然と都市とがバランスよく共存する弘前市では、まちのあらゆる所で水路や湧水を見かけることができます。弘前市は、岩木山の裾野から広がる扇状地とその先の津軽平野が接する位置にあります。標高1,624メートルにおよぶ岩木山は、その美しい円錐型から「津軽富士」と呼ばれるとともに、地元の人々には「お岩木山」「お岩木様」と親しまれています。火山灰や火山礫からなる地層は隙間が多く水を通しやすい性質で、雨や豪雪地方ならではの大量の雪解け水が浸透。地下水として蓄えられた水は、地層をゆっくりと移動して地表に現れるため、岩木山山麓には多くの湧水が存在しています。弘前では、古くよりこの豊富な地下水を飲料水や農業用水、産業用水として利用し、暮らしや産業の面から城下町を支えていました。

## 津軽氏による城下町の形成

弘前のまちの歴史は、戦国時代、津軽氏の台頭から始まります。それまで津軽地方は、南部氏の一族の支配下にありましたが、1590(天正18)年に大浦為信(後の津軽為信)が津軽地方をほぼ統一しました。同年、為信は豊臣秀吉から津軽三郡の領有を認められ、4万5,000石の領地を与えられ、後に姓を「津軽」と改めます。1594(文禄3)年には居城を大浦城から堀越城に移し、本格的な藩の基礎作りに着手し、1603(慶長8)年に徳川幕府が成立すると津軽領の支配を改めて承認され、新たな城と城下町の建設を計画します。築城地には、岩木山の裾野に広がる津軽平野の中心地に位置する高岡(現在の弘前)が選ばれました。近くを流れる岩木川や土淵川などの河川を利用した水運や、防衛に適した地形などがその理由の一つであったと考えられています。しかし、築城計画は順調には進まず、為信は城の完成を見ることなく1607(慶長12)年に死去。三男の津軽信枚が2代藩主となり、1610(慶長15)年に築城を開始しました。翌年に「高岡城」が完成し、城下町の整備も本格的に進められました。当時の高岡城には、立派な5層の天守が築かれていましたが、1627(寛永4)年、落雷によって焼失します。この火災の翌年、高岡は弘前と改称され、城も「弘前城」と呼ばれるようになり、弘前藩の政治・経済・文化の中心として本格的な城下町へと発展していきました。



1. 青森県中西部、本州の最北端を流れる一級河川・岩木川。津軽半島を北上しながら日本海に流れます 2. 津軽地方の統一を成し遂げた大浦為信(後の津軽為信)の銅像。かつては弘前城の本丸にありましたが、戦時中に金属回収のために撤去され、2004年に現在の弘前文化センター敷地内に復元されました



3. 弘前公園の外周を約2キロメートルにわたって取り囲む外濠には多くの桜の木が植えられており、春には圧巻の桜で観光客を魅了します  
4. 1611(慶長16)年の築城当時から現存する弘前城の三の丸追手門と土塁  
5. 津軽家の祖、大浦光信の菩提寺である長勝寺は、重要文化財に指定される御影堂や三門などを有する江戸時代初期を代表する建造物  
6. 弘前城の南西に33の寺が約600メートルの道沿いに集められている禅林街の杉並木

## 河川を巧みに取り入れた弘前城

弘前城は、全国に12棟しかない現存天守の一つであり、東北では唯一の現存天守を有する城です。また、江戸時代の築城当初の遺構が数多く残されている貴重な城として知られています。岩木川の河岸段丘上に築かれた弘前城は、本丸、北の郭、二の丸、三の丸、四の丸、西の郭という6つの郭で構成された平山城で、豊富な河川と湧水を巧みに利用して整備されました。その規模は、東西約500メートル、南北約1,000メートル、総面積は約50ヘクタールに及びます。築城当初は、本丸南西に5層の天守を構え、多数の櫓と門を配置するとともに、石垣や土塁<sup>※1</sup>、三重の濠を巡らせることで強固な防御を築いていました。また、城の西を流れる岩木川も天然の要害として防御に生かされたと考えられています。さらに信枚は、1610(慶長15)年から1615(元和元)年にかけて城の整備を進めるとともに、城下町一帯を濠や土塁で囲む「惣構」を築きました。弘前城の惣構は東から南を流れる土淵川、北側の大久保堰、西側の岩木川などの河川を巧みに取り込み、さらなる守りを固めるために、領内各所に点在していた寺社を城下へ移して惣構内の防御拠点としました。

## 防御の最前線として機能した禅林街と新寺町

惣構の整備は、弘前城の築城と並行して進められました。その代表的な遺構の一つが、弘前城の南西に位置する「禅林街」です。2代藩主・津軽信枚は、津軽一円から曹洞宗33の寺をこの地に集め、津軽家の菩提寺である「長勝寺」を

最奥に配置して寺院街を整備しました。一帯には濠と土塁も整えられ、城の守りに用いられるだけでなく、落城の際には「第2の城」としても機能するように考えられていました。禅林街の入口には防御のための枳形<sup>ますがた</sup><sup>※2</sup>が設けられ、軍事的な機能を備えていたことがうかがえます。「禅林街」の名は、禅寺が林のように並んでいる景観に由来すると言われますが、このように同一宗派の寺院街は全国的に見ても類がないため、藩政時代の城下町を伝える貴重な遺構として国指定史跡になっています。

さらに弘前城の南側には、2代藩主・信枚から4代藩主・信政にかけて段階的に整備された「新寺構」があります。信枚は約1万人の人夫を動員し大規模な工事を行い、「南溜池」を築造。この溜池は土塁を盛り、貯水をしてつくった人工地で、平時には人馬の訓練(水練)の場として使用しながら、有事には東南の防御線にしようと考えられていました。その後、1649(慶安2)年に寺町(現在の元寺町)にあった15カ寺が火災によって焼失したことを受け、3代藩主の信義は、焼失した15カ寺を溜池の南に再築するとともに荒廃していた大円寺を再興。南溜池一帯の守りが厚くなったことから、この地を「新寺構」と呼ぶようになったと言われています。このように弘前の城下町は、岩木川や土淵川などの豊かな水環境を巧みに取り込み発展しました。河川や堰は、防御や水運だけでなく、生活用水や防火用水としても重要な役割を果たす都市基盤となっていました。

※1 敵や動物の侵入を防ぐために築かれた、主に盛土による防壁

※2 敵の侵入を防ぐために道を直角に曲げた場所のこと



1. 金剛山最勝院の五重塔は、青森県で最初に指定された重要文化財建造物で、「東北地方第一の美塔」としても知られています  
2. 江戸時代に紙漉きに始まり、地域の貴重な生活水として親しまれてきた富田の清水 3. 歴史ある神社の奥にひっそりと存在する清水観音水  
4-5. 尾開山のうっそうとした杉林に囲まれた御茶水。明治天皇が行幸されたことを示す石碑も残されています

## 製紙業や人々の暮らしを支えた弘前の湧水。

### 先人の知恵を今に伝える富田の清水

濠や川が弘前城の防御を支えた一方で、城下の人々の暮らしを支えていたのが豊かな湧水です。弘前市中心部周辺では今も多くの湧水が残っており、その代表的な場所が「富田の清水(しつこ)」です。「しつこ」とは、津軽弁で湧水を意味し、1985(昭和60)年には環境庁(現・環境省)の名水百選に選定されています。富田の清水は、新寺町にある金剛山最勝院の近く、現在の弘前市紙漉町にあります。藩政時代から昭和の初めごろまでは、紙漉町一帯で「紙漉き」が盛んに行われていました。和紙をつくるには清冽な水が必要なため、4代藩主・津軽信政によって招聘された和紙職人の熊谷吉兵衛が、豊富で良質な水の湧くこの地に御用紙漉所を設置したと言われています。時代の変化とともに製紙業が廃れてからは、周辺住民の生活用水として使用されていました。6つ並ぶ水槽には用途ごとに決まりがあり、1・2槽目が飲用、3槽目が米・青物の洗いと洗顔、4槽目が紙漉きの材料、漬物樽の洗浄、5・6槽目が洗濯のすすぎや足洗いに使われていました。その利用方法に込められた先人たちの知恵は水を大切にする地域文化を伝えており、現在でもこんこんと湧き出る清らかな水は大切に管理され、お茶やお料理に使うために地元の人が汲みに訪れています。

### 大切な資源として活躍する名水

富田の清水以外にも、弘前市には多くの湧水スポットが残されています。県内に30カ所ある青森県指定の「私たちの名水」のうち、弘前市には最も多い7カ所の名水が選ばれています。例えば、多賀神社の本殿に湧く「清水観音水」は、巨岩の間から絶えず流れ出る清らかな湧水です。湧水の脇には観音様の石像が静かに佇み、境内には澄んだ水音と鳥の声が響き、落ち着いた空気に包まれています。33霊場2番札所として古くから信仰を集めてきた場所にあり、京都・清水寺の舞台を模して建立された御堂の背後から湧き出すことが、名前の由来となっています。また弘前市と大鰐町おびりやまの境界にまたがる尾開山の中腹にある「御茶水」は、水量も豊富なうえ、とろみのあるまろやかさでほんのりと甘味を感じられる名水です。1881(明治14)年に明治天皇が東北を巡幸した際、この湧水でお茶を召したことから「御茶水」と名付けられました。尾開山は、かつて修験者が修行した山として知られ、忍者ゆかりの地としても語り継がれており、今でも入山者や農家の方々が飲水として利用しています。多くの湧水は、飲料水だけでなく、農業用水や水道水源としても利用されてきました。弘前市では現在でも一部の水道は湧水を水源としており、市の貴重な水資源となっています。

## 豊かで良質な水が育てた弘前の「食」と「産業」。

### 肥沃な津軽平野が育てる日本一のりんご

岩木山からもたらされる豊かな水資源は、農業や食品産業、製造業など、今日に至るまでさまざまな産業の発展を支えてきました。弘前を代表する産業といえば、全国有数の生産量を誇るりんごです。津軽平野は昼夜の寒暖差や肥沃な土壌に加え、豊かな水環境にも恵まれており、高品質なりんごの生産を可能にしています。弘前市の年間生産量は、2022(令和4)年のデータによると18.2万トンにものぼり、全国の73.7万トンの約4分の1を占めており、市町村別では全国一の生産量を誇ります。よく知られる「ふじ」のほかにも、「つがる」「陸奥」「世界一」「ジョナゴールド」「北斗」「王林」「金星」など、多くの品種が栽培されています。りんごを使用したジュースやジャム、お菓子などの加工品も数多く作られており、弘前の特産品として親しまれています。近年はアップルパイの製造にも力を入れており、市内の多くの店舗では個性豊かなアップルパイを楽しむことができます。

### 軟らかな伏流水で仕込む県内最多の酒どころ

日本酒や味噌、醤油といった発酵食品の製造も、水の恩恵を受けて発展してきた産業です。特に日本酒は、青森県内にある11の日本酒蔵のうち、5蔵が弘前市内にあるなど、県内最大の酒どころとなっています。これは、岩木山の伏流水

による良質な仕込み水に加え、津軽平野で生産される豊富な米、寒冷な気候という酒造りに適した自然条件に、城下町として商業が発展した歴史が要因となっています。

市内にある5つの酒蔵のうち、弘前城の西に位置する松緑酒造まつみどりは、こだわりの純米酒ブランド「六根」などの銘柄を醸造している酒蔵です。創業は1904(明治37)年ですが、その歴史は江戸時代から始まっています。当初は、日本酒造りの工程でアルコール発酵の土台となる「酒母」造りを生業とし、津軽地方全域の酒蔵に販売していました。その後、各地で醸造試験場が創設され各酒造家が自製の酒母を造るようになったことから、日本酒製造へと事業転換を図っています。松緑酒造では、青森県産を中心とした米と、岩木山の伏流水を井戸から汲み上げ、仕込み水として使用。口当たりの良い中軟水で、酵母を活かした酒造りを行っています。代表取締役社長の千田祐理子様に酒造りについてお聞きすると、「私たちが目指しているのは米と麴の力が澄んだ光を放つような“きれいな酒”です。米と酵母の力を余すことなく活かしたきれいで澄んだ味わいをお届けしたいですね」と語られました。さらに松緑酒造では、酒蔵と併設したカフェ・ショップで岩木山の伏流水で淹れたコーヒーと紅茶が楽しめるサービスも提供しているなど、水の美味しさを実感することができます。



6-7. 創業100年を超える歴史ある松緑酒造の外観と酒蔵。レンガの煙突が趣を伝えます  
8. 酒蔵と併設したおしゃれなカフェ・ショップでは、オリジナルグッズも販売  
9. 松緑酒造を代表する純米酒ブランド「六根」

## りんごと水から生まれた新名産「シードル」

さらに近年、弘前の成長産業として注目を集めているのがシードル(Cidre)です。シードルとは、りんごの果汁を発酵させて造られる醸造酒(果実酒)で、日本では「りんご酒」とも呼ばれます。1953(昭和28)年に弘前の酒造メーカー社長・吉井勇氏が、視察で欧米を訪問した際にりんごの発泡酒シードルに着目し、帰国後、朝日麦酒株式会社(現・アサヒビール)と連携して日本初のシードル会社「朝日シードル株式会社」を設立。1956(昭和31)年より販売を開始したのが日本における「シードル」の始まりとされています。その後、製造技術はニッカウキスキー株式会社に引き継がれ今日に至っています。シードルは、りんご果汁と水、酵母を用いて醸造されるため、仕込み水の品質が味を左右します。弘前市内には個性豊かなシードル醸造所が次々と誕生してお

り、生食用のりんごを贅沢に使ったものや、りんご生産の工程で摘果したりんごを使ったもの、単一品種のみを原料としたものや、数種類の品種をブレンドしたものなど、こだわりの詰まった個性的なシードルが揃っています。2014(平成26)年4月に弘前市は「ハウスワイン・シードル特区」にも認定され、国際的な品評会での最高賞受賞や、国内の品評会でも複数入賞するなど、国内外で高い評価を得ています。

弘前市では、岩木山からもたらされる清らかな水の人々が知恵を凝らして暮らしやまちづくりに生かし、城下町の発展から酒造り、りんご産業など地域産業へと受け継いできました。時代とともに役割を変えながらも、その恵みは、今なお地域の産業や文化を支えています。豊かな自然が育む水は、これからも弘前ならではの魅力を生み出す大切な資源であり続けるでしょう。



1. 弘前市りんご公園内にある「弘前シードル工房kimori」では、シードルの飲み比べが体験できます
2. シードルをはじめ、りんごを加工したお菓子やりんごにこだわった商品が多数販売されています
3. りんごのまち・弘前で味わえる至極のアップルパイ
- 4-5. 弘前市のりんごの栽培面積は6,172ヘクタール(2020年)で、全国の24.3%にものぼる日本一のりんご生産地です

### 【取材協力・資料提供】

- 弘前市教育委員会 生涯学習課 図書館・郷土文学館運営推進室
- 株式会社松緑酒造

### 【参考資料】

- 新編 弘前市史 通史編2〜3(近世1〜2) (「新編 弘前市史」編纂委員会 編／弘前市企画部企画課 発行)
- 東北の名城を歩く 北東北編(飯村 均 室野 秀文 編／株式会社 吉川弘文館 発行)
- 青森県観光情報サイト Amazing AOMORI [HP](https://aomori-tourism.com/) <https://aomori-tourism.com/>
- 刀剣ワールド [HP](https://www.touken-world.jp/castle-town/hirosaki/) <https://www.touken-world.jp/castle-town/hirosaki/>
- 刀剣ワールド 城 [HP](https://www.homemate-research-castle.com/useful/16942_tour_023/) [https://www.homemate-research-castle.com/useful/16942\\_tour\\_023/](https://www.homemate-research-castle.com/useful/16942_tour_023/)



## 暑い夏を豪華絢爛に彩る「弘前ねぶたまつり」

弘前市の夏を代表する祭りといえば、「弘前ねぶたまつり」です。毎年8月1日から7日に開催され、『三国志』や『水滸伝』などの武者絵を描いた大小約80台の勇壮華麗な灯籠(=ねぶた)を乗せた山車が、「ヤーヤドー」の掛け声とともに城下町・弘前を練り歩きます。その由来については諸説ありますが、忙しい夏の農作業の妨げとなる眠気や怠け心などを流す「眠り流し」という農民事から生まれたとされています。「ねぶた」の語源も、「眠り流し」から「ねむたながし」「ねむた」「ねぶた」と転じたものとされています。ねぶたが初めて記録に登録に登場したのは、1722(享保7)年の「弘前藩庁日記」で、5代藩主・津軽信寿が高覧したとの記述が残っています。江戸時代後期には、江戸や京都の町人文化隆盛の影響を受け、人形型の組ねぶたが作られるようになりました。現在では、子どもねぶたや前灯籠などの趣向を凝らしたものから、扇型の「扇ねぶた」、人形の形をした「組ねぶた」など、豪華絢爛なねぶたがそろいます。子どもたちが手に持つ「金魚ねぶた」も人気です。運行は小型ねぶたから

大型ねぶたへと続き、それぞれの後ろには笛や太鼓の団が続き、お囃子が一層祭りを盛り上げます。

こうしたお祭りは、青森県内各地域40カ所以上で7〜8月に開催されています。「弘前ねぶたまつり」と並んで特に知られているのが「青森ねぶた祭」です。「ねぶた」と「ねぶた」で発音が異なるのは、「眠たい」を意味する方言の違いによるもので、「ねぶた」は県北地域、「ねぶた」は県西地域で使われています。また、祭りを象徴する山車の形にも違いがあります。青森のねぶたでは、歌舞伎の荒事などを題材に立体型で表現するのに対し、弘前のねぶたでは扇型の平面に描くスタイルが主となっています。弘前のねぶたは、平面ながらも表面に武者や英雄、裏面に美人画や墨画が描かれ、静と動が表裏一体で表現されています。弘前ねぶたまつりは、1980(昭和55)年1月に国の重要無形民俗文化財に指定され、例年160万人を超える観客が集まります。300年以上にわたり受け継がれてきた伝統の灯が弘前の夏を彩り、多くの人々を魅了し続けています。



### ▶ 津軽藩ねぶた村

青森県弘前市亀甲町61

TEL 0172-39-1511

開館時間 9:00~17:00

(お食事エリアのみ15:00ラストオーダー)

[HP http://neputamura.com](http://neputamura.com)

弘前ねぶたをテーマとした体験型の観光施設です。「弘前ねぶたの館」では、高さ10メートルの大型ねぶたやねぶた絵の展示をはじめ、津軽三味線の生演奏も楽しむことができます。その他、津軽の民芸品、大石武学流庭園など、津軽をまるごと楽しめます。



EVENT

## 東京ビッグサイトで開催された『下水道展'26東京』に出展しました。

## 下水道展'26東京

2026年8月4日～7日の4日間、東京ビッグサイトで「下水道展'26東京」が開催され、5万人以上が来場しました。下水道展は、全国の地方公共団体などを対象に、下水道に関する最新技術・機器、サービスを紹介する国内最大規模の展示会です。施設の老朽化や人口減少に伴う収入減、人員不足による管理体制の脆弱化など、下水道事業が抱えるさまざまな課題の解決に向け、地方公共団体や企業、関係団体が最新の技術や情報を共有し、交流する場として開催されています。

今回、フジクリーンは11回目の出展となり、集合処理から個別処理への転換検討が進む背景を踏まえ、「なぜ今、個別処理への転換なのか」をテーマに出展しました。また、家庭用浄化槽CB型のカットモデルを展示し、浄

化槽の仕組みや役割を分かりやすく解説。地域に適したこれからの污水处理のあり方を考える機会として、多くの来場者に当社の展示をご覧いただきました。



EVENT

## 高松市内の小学校で「環境教室」を実施しました。

香川県高松市内の小学校で、「身近な水環境の保全」をテーマとした環境教室を実施しました。授業では、水が地球上を循環する仕組みや、家庭で使った水が川や海へ戻るまでの流れ、浄化槽の役割などについて、クイズを交えながら紹介。また、水に入れたトイレトペーパーとティッシュの変化を比べる実験を通じて、生活の中で生じる汚れが水環境に与える影響について学んでもらいました。



さらにミニチュア浄化槽を使って、槽内にすむ微生物が汚れを分解し、水をきれいにする仕組みを説明。児童の皆さんからは、微生物の種類や浄化槽の大きさなどについて、多くの質問が寄せられました。

授業の最後には、「洗剤やシャンプーを使いすぎないようにしたい」「水を出しっぱなしにしないようにしたい」といった声が聞かれ、水を大切に使うことの重要性を児童の皆さんと共有する機会となりました。



メディア

## 講談社『異世界町工場無双』第8巻の取材・制作に協力しました。

2026年7月22日（水）発売の講談社『異世界町工場無双』第8巻に、浄化槽が活躍する「腸の国編」が収録されました。制作にあたり、作者・編集部の方々が当社の那須工場、水環境研究所を訪れ、浄化槽の仕組みや役割について取材。作中の描写や解説内容の確認にも協力させていただきました。

同巻には、取材時の写真を交え、水環境研究所での見学の様子を紹介する特別記事も掲載されています。物語を通じて、浄化槽の役割や水をきれいにする技術に触れていただける内容となっています。ぜひご覧ください。



メディア

## 「職業体験ドットコム」の会社探究シリーズで、フジクリーンが紹介されました。

Webサイト「職業体験ドットコム」の会社探究シリーズに、フジクリーンが掲載されました。このサイトは、子どもたちが企業の仕事や社会とのつながりについて学ぶサイトで、浄化槽や排水処理システムの研究・開発から製造、販売、メンテナンスまでを一貫して行う当社の事業内容が紹介されました。また、ベトナムの世界遺産・ハロン湾に浄化槽を設置し、水環境の保全と人々の暮らしを支えている事例も取り上げられています。

水環境を守る当社の仕事について、楽しく学べる内容となっています。

「職業体験ドットコム」  
掲載ページはこちら



働きがい  
向上紹介  
22

## 教える側も、教わる側も、ともに成長を目指す。 「教育担当者研修」を実施しています。



フジクリーンでは、新卒新入社員の教育を担当する社員を対象に、「教育担当者研修」を実施しています。新入社員と信頼関係を築きながら、成長段階に応じた指導を行うためのスキルと心構えを身につける研修です。

研修では、新入社員の状況に応じた伝え方や関わり方を学び、一人ひとりに合った指導を行う力を身につけます。新入社員の知識や習熟度、意欲などに合わせ、ティーチング・トレーニング・カウンセリングという3つの

方法や、育成計画の立て方、定期的な振り返りについて学びます。また、外国籍社員との文化や価値観の違いなど、教育担当者が直面しやすいテーマについて意見を交わす機会も設けています。

新入社員の育成は、教育担当者自身にとっても、日頃の仕事の進め方やコミュニケーションを見つめ直し、成長する機会となります。今後も、教える側と教わる側がともに成長し、安心して働ける職場づくりを進めていきます。

もっと  
motto!  
広げよう

水環境をきれいに  
する取り組み

〈愛知県名古屋市中区〉

NPO法人  
グリーンジャーニー  
Green Journey



代表理事  
うつぎ  
空木 マイカ さん

## 都市の中に環境コミュニティを増やし、 循環する風景をつくっていききたい。



東別院にあるNURF畑。家庭のコンポストを堆肥化して資源を循環させます

自然体験を通して、  
環境への関心を高めます



NPO法人 Green Journeyは、未来の地球を守ることを目的に環境活動に取り組んでいます。結成のきっかけは、代表理事である空木さんが出産や子育てを経験する中で、深刻化する気候変動や地球温暖化などの環境問題に危機感を抱いたことでした。「子どもたちが安心して暮らせる環境を残したい」という思いに多くのお母さんやお父さんも共感。「今できることからやっいていこう」という考えのもと、2020（令和2）年に活動をスタートしました。

現在は、目的に応じてメンバーが自由に参加できるさまざまな事業を展開。中でも、都市をサステナブルな街に変える取り組みとして行っているのが、空き地をエディブルガーデン※1にする「NURF※2プロジェクト」と「都市型コンポストプロジェクト」。NURFプロジェクトは、リジェネラティブ農法※3を取り入れた畑でさまざまな野菜を育てながら、土壌に炭素を固定化する活動です。月1回の全体活動に加え、日頃からメンバーが気軽に立ち寄って、畑の手入れを行ってい

ます。またこのNURF畑は、各家庭で行ったコンポストを持ち寄る拠点としても活用。集まったコンポストを堆肥化して畑で活用し、そこで育った野菜を食べるという資源循環を生み出しています。2年間で約1.2トンの生ゴミと、約100キログラムのCO<sub>2</sub>排出量削減につながりました。この活動で大切にしているのは、参加者一人ひとりのマインドを変えていくこと。ゴミの出し方から日々の暮らしを見直すきっかけをつくり、環境への意識を育んでいます。

その他にも、田んぼでの農作業体験や養蜂、醤油づくりなど、世代を超えて楽しめるイベントを開催。多くの人が直接自然に触れることで、感動や発見に出会う原体験を提供したいと考えています。今後は、NURF畑を誰もが立ち寄りたくなる都市型コミュニティガーデンへと発展させる計画を進めています。より多くの「循環」に触れられるコミュニティ拠点を増やし、循環が当たり前の風景となる次の時代のスタンダードをつくっていくつもりです。

※1 「edible」と「garden」を組み合わせた言葉で、野菜、ハーブなどの食べられる植物を栽培する庭のこと

※2 Nagoya Urban Regenerative Farmの略 ※3 CO<sub>2</sub>を土壌に固定し、地球温暖化などの気候変動を抑制する農法のこと

 **FujiClean** フジクリーン株式会社

本社 名古屋市中区丸の内一丁目16番15号 名古屋シミズ富国生命ビル14階 〒460-0002 TEL (052) 733-0325  
<https://www.fujiclean.co.jp>

|                       |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 札幌支店 (011) 738-5075   | 群馬営業所 (027) 327-5611  | 広島営業所 (082) 843-3315  |
| 東北支店 (022) 212-3339   | 埼玉営業所 (048) 660-5050  | 高松営業所 (087) 869-8680  |
| 東京支店 (03) 3288-4512   | 千葉営業所 (043) 206-5171  | 松山営業所 (089) 967-6123  |
| 名古屋支店 (052) 249-5100  | 新潟営業所 (025) 271-8668  | 高知営業所 (088) 803-1520  |
| 大阪支店 (06) 6396-6166   | 山梨営業所 (055) 275-9300  | 佐賀営業所 (0952) 31-9151  |
| 福岡支店 (092) 441-0222   | 松本営業所 (0263) 27-2080  | 熊本営業所 (096) 388-3571  |
| 盛岡営業所 (019) 604-2527  | 岐阜営業所 (058) 271-1131  | 大分営業所 (097) 558-5135  |
| 郡山営業所 (024) 937-0800  | 静岡営業所 (054) 286-4145  | 宮崎営業所 (0985) 32-3064  |
| 茨城営業所 (029) 851-0031  | 三重営業所 (059) 213-5520  | 鹿児島営業所 (099) 257-3501 |
| 宇都宮営業所 (028) 625-4650 | 和歌山営業所 (073) 422-3634 | 沖縄営業所 (098) 862-9533  |



 フジクリーン  
公式Instagram

Follow Me /



FUJICLEAN\_OFFICIAL

 ミックス  
紙 | 責任ある森林  
管理を支えています  
FSC® C014687